

# Paper Dome Letter

台湾・神戸まちづくり交流報 特別号 2008/2/10 発行

## 立柱式、順調に終わる



無事、58本の柱を建て終えて、皆で集合写真

## 神田神父、大いに語る

25日の立柱式に先立ち、前日24日の夜、ペーパードーム学校を開校、日本からたかとりコミュニティセンターの神田裕神父をお招きし、最初の講座を開催しました。「たかとり教会からたかとりコミュニティセンターへ」と題して、阪神大震災後単に宗教の場であったたかとり教会が、どのようにまちづくりの交流センターに変わっていったのか、台湾のまちづくりの仲間たちに語っていただきました。



大いに語る神田神父。通訳するのは黄世輝先生  
二人の息はぴったりでした。

## 58本の柱、一本一本立て起こし

2008年1月25日、桃米生態村新故郷社区見学エリアで、ペーパードーム立柱式典が注目の中行われました。

台湾各地からまちづくりの仲間たち、そして日本からたかとりコミュニティセンターの神田神父やペーパードームたかとり台湾再生実行委員会のメンバーなど10名の来賓、あわせて1000人近くの人たちがペーパードームの工事現場へ心躍らせ集まってきました。そして、一緒に紙柱を運び、58本を一本一本立て起こしていきました。これは、台湾中から大集合したまちづくりの仲間が、互いに力を合わすことの素晴らしさを分かち合う機会となりました。

現場では、さらにペーパードーム建設経費の募金のため、「希望の袋」のチャリティ販売、台湾まちづくり優良産品詰合チャリティ販売などを行い、多くの支援を頂きました。

終わりに、この一刻を歴史に留め、さらに台湾と日本の復興の交流を深めようと、全員紙柱の前で記念撮影を行いました。



皆で立て起こす。いち、にっ、さん。



左は神田神父と右は謝志誠氏



ボランティアの学生たち

## 台湾と日本で声あわせ

立柱が無事終わったその夜は、ペーパードーム園區、「災いを越え、手を繋いで前へ—台・日市民交流会」のパーティを各戸一菜方式(各家庭から料理を持ち寄る)で開きました。日本から参加した来賓、桃米の住民、新故郷基金会のメンバーが共に集い、埔里合唱団や中心国楽隊の友情出演もあり、最後は台湾と日本の合唱が流れる中、心温まる夜は終わりました。



日本から参加した小林、菅井、垂水、浅山、一人置いて天川、河合、井垣、福留、大田の皆さん、神田さんはすでに帰国

(新故郷文教基金会 HP より)

発行／たかとりペーパードーム台湾再生計画推進委員会

日本事務局 たかとりコミュニティセンター

E-mail : office@tcc117.org

台湾事務局 新故郷文教基金会

E-mail : land@homeland.org.tw

